



2015.11.29

NO.6

日本基督教団

伝道に燃える教団

伝道推進室

今こそ、福音伝道の前進のために！

suisinsitsu

News

contents

2〜4／伝道キャラバン(福島地区)報告 5／伝道応援報告 6／夏期研修会報告 7／最新の教勢分析・考察 8／お知らせ

「見上げてみれば…」

マタイによる福音書 第2章 1〜12節

さや教会牧師 篠浦 千史

第39 教団総会期／常議員

「見上げてごらん、夜の星を…」日航ジャンボ機の事故で亡くなった坂本九のヒット曲です。この歌を口ずさみながら夜空を見上げると、久しぶりに星を見た気がしました。頭上にこんなに星があるのに、下ばかり見ていたのだと気づきました。

かつてイスラエルの人たちも“あの星”に気づきませんでした。東方から占星術の学者たちが、はるばるその星に導かれてエルサレムまで来ました。彼らは“星”の輝きに新しい時代の到来を読み解いたからです。その地ではさぞお祝いムードで沸き返っているだろうと期待して来たことでしょう。ところが、来てみるとそこは普段と少しも変わりません。彼らは新しい王を求めて都中を探し回ったに違いありません。その噂を聞きつけて、ヘロデ王が彼らを召し出しました。

彼らは尋ねました。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられるのですか？」と。現職の王の前で新しい王の誕生を問う。とても危険な事です。王位を脅かすことになるからです。その時代、人々は救い主を待ちわびていたはず。ローマの圧政に苦しみ、また彼らを治めるヘロデ王は、純血を重んじるユダヤ人が忌み嫌うエドム人の血を引く者だったからです。救い主の出現を今まで以上に切望していた



Mikotoba

はずなのです。それなのに彼らは救い主イエスの誕生に気づきませんでした。どうしてでしょうか？

救い主は秘かに地上に來られたからです。人は神の子なら華々しく登場

するはずだと思います。でも、現実とは違っていました。神の子は名もない若い夫婦の子として、都ではなくベツレヘムでお生まれになったのです。でもそれは、遡ること 700 年も前にミカ書で記されていたことです。人々はそれがどこで起こるのかを知っていました。けれど、それが“いつ”なのかを知らなかったのです。知ろうとする努力を怠って…、いえ、生活に疲れ、信じる気持ちをどこかに置き忘れていたのです。

自分で何とかしなければと思う時、私たちは必死になります。そして目を上へ転じることを忘れてしまうのです。神を仰がないのです。空にひとときわ輝く星が出ても、日常に振り回されている者は気づきません。人々の無関心さをよそに、学者たちはベツレヘムを目指します。再び歩み始めた彼らをその星は導いてくれるのです。探しているものを解く鍵は頭上にありました。神を仰ぐ謙遜さを取り戻せば、答えはそこから導かれるのです。

学者たちは喜びに溢れて自分たちの生活の場に戻って行きました。

私たちは今、どこに目を向けているのでしょうか？騒がしい巷に視線を彷徨わせているのでしょうか？それとも目を上に転じ、導かれるのでしょうか？クリスマスはそれを問われる季節です。

福島地区

9.12(土)～9.15(火)

日本基督教団が来た！

東日本大震災と原発事故により、福島を離れざるを得なかった教会員や伝道者の受けた非常な苦しみを思います。福島地区はたくさんの方の大切なものを失いました。けれども福島地区には今も、震災前から歌っていた讃美歌を子どもたちに教

え続けている学校や幼稚園、キリスト教会があります。その福島地区へ応援が来ました。日本基督教団が11名（牧師7名・神学生4名）からなるキャラバン隊を組み、キリストを伝えるに来たというのです。歓迎の握手には力がこもります。これほどにうれしく頼もしい応援が他にあるでしょうか。

2015年9月12日から15日にかけて実現した福島地区伝道キャラバン。対象となったのは福島地区にある8つの教会・伝道所と5つの関係団体です。

さらにうれしいことには、郡山教会と磐城教会の講師派遣制度申請と日程が重なり、お互いに連携することができました。期間中、数ある名場面から一部ご報告いたします。



13日主日礼拝・14日施設訪問、説教者、キャラバンメンバー

保原教会	説教▶北 紀吉 (松沢教会)
大平伝道所	説教▶須田 拓 (東神大／橋本教会)※12日
福島教会	説教▶石橋 秀雄 (越谷教会)
	黛 由香里 (東神大3年／小金井緑町教会)
福島新町教会	説教▶岩田 昌路 (粕江教会)
	立証▶篠原 太郎 (東神大4年／青山教会)
信夫教会	説教▶宮本 裕子 (東神大4年／吉祥寺教会)
	説教▶宮本 裕子 ※早朝礼拝
川俣教会	説教▶酒井 麻利 (東神大大学院1年／鎌倉雪ノ下教会)
飯坂教会	説教▶酒井 麻利 ※午後
福島荒井教会	説教▶小林 克哉 (興平安教会)
福島伊達教会	説教▶大三島義孝 (碑文谷教会)
	説教▶小林 克哉 ※夕礼拝

飯坂恵泉幼稚園	お話▶石橋 秀雄
伊達保育園	お話▶石橋 秀雄
福島愛隣幼稚園・保育園	お話▶石橋 秀雄 ※25日
聖光学院高等学校	説教▶山畑 謙 (小金井緑町教会)
福島地区懇談祈祷会	▶石橋 秀雄

(敬称略)

伝道応援報告

講師派遣

伝道推進室は9月13日(日)、東北教区いわき・郡山地区の郡山教会と磐城教会への伝道応援を実施しました。

郡山教会には、山畑謙牧師（小金井緑町教会・伝道推進室委員）が派遣され、説教「風たちぬ いざ生きめやも」による伝道礼拝と、午後の講演「キリストに倣いてーこんでんつすむん地ー」がもたれました。

磐城教会には、須田拓牧師（東京神学大学・橋本教会）が派遣され、説教「生きるのも死ぬのも主のため」による伝道礼拝がもたれました。神学校を身近に感じる時ともされたそうです。

伝道応援による礼拝・集会後、講師たちは福島地区伝道キャラバンに合流し、2教会の牧師・信徒たちも福島伊達教会でもたれた卓球大会・合同礼拝に参加されました。

お墓に行こう！ トラクトを配ろう！ いっしょに遊ぼう！ 主の御名をあがめよう！

東京から到着した土曜夕方、田舎道をそれた丘の斜面に墓石群が見える…あそこにはかつてこの辺りで主を礼拝していた日本基督教団信徒のお墓がたくさんあります、と紹介。そのとたん「行こう」と石橋秀雄教団議長。福島地区キャラバンのはじまりは、予定を曲げての墓前祈祷会でした。

一方、先に二手に分かれて保原に向かった一行は、教会近隣でトラクト配布の奉仕をしました。

主日の午後は、一堂に会しての「議長杯卓球大会・愛餐会・合同夕礼拝」（於：福島伊達教会）と盛りだくさん。震災以来意気消沈してきた福島地区の交わり。それがこの夜は互いの笑顔と讃美の声に励まされ「またやろうね」と言いかわす。翌日開催の「地区懇談祈祷会」でも昨夜来の熱気を再確認。伝道キャラバンを迎えたことにより、何か新しいことがはじまる予感が生じました。

「イエスさまのイエスさまの愛があるから」。石橋議長の腹話術が呼び水となり、飯坂恵泉幼稚園では震災時に歌った讃美歌の話に胸が熱くなりました。最終日の福島愛隣幼稚園では神学生がいっぱい遊んでくれました。ありがとう。

キャラバンを送り出してくれた皆さんもありがとう。福島で讃美歌を覚えて育つ子どもたちの味方になってくださいね。ちなみに第一回卓球大会の優勝は福島教会の M 兄でした。おめでとうございます。



保原教会の近隣で
トラクト配布

二本松市安達が原で
急遽の墓前祈祷会



主日は各教会に分かれて
礼拝
主日礼拝後、福島伊達教会に集合し「教団総会議長杯卓球大会」を開催



その後、愛餐会と「福島地区合同夕礼拝」を共に（説教は小林克哉牧師）



主日礼拝。信夫教会では宮本裕子神学生が、飯坂教会では酒井麻利神学生が説教奉仕



聖光学院高等学校にて、左から新井秀校長、栗田三郎牧師（保原）、須田拓牧師（東神大）



福島愛隣幼稚園では、神学生がいっぱい一緒に遊んで奉仕



飯坂恵泉幼稚園で、石橋議長の腹話術や手品によるメッセージに子どもたちも大喜び





吾妻山中腹硫黄鉱山跡に立つ
石橋議長

伝道の喜びを経験する旅

伝道キャラバンに参加しました

東京神学大学 4 年 宮本 裕子

伝道キャラバン福島への参加が許され、感謝致します。福島では伝道トラクト配り、卓球大会と大焼肉パーティ、幼稚園での礼拝と交わり等を致しました。私は信夫教会で主日礼拝説教をさせて頂きました。

福島伊達教会の白井真先生には大変お世話になりました。福島の温泉はぬるくても 43 度、熱いところでは、足を入れることもできず、まるでポットのお湯のようでしたが、福島の人たちは普通に入浴しており、神学生たちはおっかなビックリの入浴でした。

震災後、すでに 4 年が経過しておりますが、仮設住宅や放射能線量計を見るにつけ、未だに原発事故の影響があるのだと感じました。

また、園長先生のお話をお聞きしましたが、震災の時、情報がない中でたくさんの決断、決断後の批判に対するぶれない凛とした態度に、クリスチャンとして主に依り頼んでいる姿が印象的でした。

また、石橋秀雄牧師の超マジックショーに園児も神学生も魅了されました。

引率して下さった先生方、福島の先生方、教会員の皆さま、ありがとうございました。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

東京神学大学 4 年 篠原 太郎

「イエス様の最初から、伝道はキャラバンなんだ」と、牧師より誘われて福島伝道キャラバンに参加しました。

東京神学大学のラウンジに集合して、祈りをもって出発しました。車 3 台に分乗して福島に向かいました。先を進んでおられる牧師が運転をし、神学生は後ろに座ります。牧師が質問し、神学生が答えます。神学生が自由に問かけ、牧師も自由に教えます。楽しい雰囲気、途中佐野サービスエリアで、祈りの時を持ちました。

4 日間の宿は、福島伊達教会のこひつじ館です。和室で、大先輩の牧師に挟まれて眠りました。

13 日(日)は、福島新町教会の主日礼拝の中で証しの奉仕を致しました。4 日目の最終日は、一日福島市内の幼稚園にて、年長さんのクラスに入れてもらい、運動会の練習をしたり、給食を食べ、一緒に遊び、礼拝をする時を持ちました。感謝。

福島新町教会

福島新町教会牧師
瀧山 勝子

XXXXXXXXXX



震災後、励ましを受けて

あの震災から 4 年半目に、伝道推進室キャラバン隊が福島地区に来て下さった。福島新町教会には 9 月 13 日(日)の礼拝において、篠原太郎神学生の証し、岩田昌路牧師の説教により特別伝道礼拝が行われた。神学生には「救いと献身の証し」、岩田先生には「見よ、神の愛の大きさを」と題して、力強いメッセージを頂いた。

お二人を通して、神の救いの御業を見させられ、教会員一同、自らの救いの恵みを重ね合わせ、もう一度改めて気付かせられ「どんな苦しい時も神は私たちを見捨てられない」「御父がどれほど私たちを愛してくださるか考えなさい」御言が心にとどまった。

礼拝後、婦人会の方々が心尽しのちらし寿司を用意し、先生方との交わりと証しの時が与えられ感謝であった。

14 日(月)地区懇談祈祷会后、石橋秀雄教団議長と神学生の方々に、震災後 1 年 1 ヶ月かけ修復された福島新町教会において頂き、試練の中、主の恵みと多くの方々のお献げにより修復されたことを伝え感謝の祈りを捧げた。

川俣教会

川俣教会牧師
鈴木 稔久

XXXXXXXXXX



伝道キャラバンをお迎えして

川俣教会では 9 月 13 日(日)午前の礼拝で、酒井麻利神学生に説教していただきました。コリントー 1 章 26～31 節より、「何を誇るのか」という主題です。酒井神学生の明るく爽やかな説教から、私たちは、神の御前に弱さをさらけ出して良く、救われた喜びを隣り人にも伝えていきたいと思われました。

礼拝後は、神学生を囲んで昼食会を行いました。東日本大震災後、初めての外部講師を招いての礼拝と昼食会でしたので、皆、楽しく参加しました。親しい語り合いにより、「自分にできることは、神を伝えること」と神学生がおっしゃっていたことが心に残ったという出席者もありました。

その日の午後 3 時には、飯坂教会（鈴木が代務）で酒井神学生に説教していただきました。

翌日は、飯坂恵泉幼稚園（鈴木が誕生会の礼拝を担当）で石橋秀雄教団議長に説教していただきました。腹話術と手品の披露に、園児は大喜びでした。

皆様の御用を感謝いたします。

伝道応援報告

◆東京教区 東支区◆

講師派遣

2015年10月18日(日)

山北 宣久
(元 教団総会議長)



大島町災害支援教会協力会主催

森祐理コンサート 特別合同礼拝

波浮教会牧師 竹井 真人

あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。(フィリピ 2:13)

2013年10月16日、大島町土石流災害が発生しました。この災害により39名(うち3名は今なお行方不明)が犠牲となりました。その中大島元村教会の役員で、町議会議員・保育園理事長であった清水和子姉がおられました。清水姉の災害による急逝は深い痛みと悲しみをご遺族と教会、地域に残しました。

災害後、諸教会・諸団体から義援金が寄せられました。波浮教会にはほとんど被害がありませんでしたので、10万円を残し、残りは町の義援金受付に届けました。残した義援金は森祐理コンサートに用いようと考えたからです。実はその年度、波浮教会の会計は火の車で、次年度への繰り越しは3万円を切っていました。義援金を教会会計に入れたいのは山々でしたが、役員会はそれをよしとしませんでした。災害の1年半前に波浮にお招きした森祐理さんが、自らも阪神淡路大震災で大学卒業間近の弟さんを失った被災者として、国内外の被災地を訪れて心の救援物資を届けておられる証しを伺っていましたので、大島にもう一度おいいただき、被災された方々を励ましていただきたいと願ったからです。

被災から1年を過ぎて落ち着きを少し取り戻し、コンサートに向けての取り組みが始まりました。波浮教会と大島元村教会が核となった大島町災害支援教会協力会の主催として、両教会から実行委員を立て、計画を進めました。時期はできる限り、災害の起こった10月が望ましいと思いました。森祐理さんの予定を問い合わせると、被災翌日からの2日間だけが空いているとのこと返事、何よりの日程だと驚き喜びました。被災当日は町の追悼記念行事が行われるので、これは神様が備えてくださったと思い、心より主を賛美



しました。コンサートだけではもったいない、礼拝も合同で行い、礼拝の中でも森さんの賛美と証しをしていただく、礼拝に特別講師を立てよう、講師は伝道推進室の協力を申請してみよう…そして山北宣久先生をお迎えできることになったのです。

今回は被災地の中心である元町地区で開催することとし、コンサート会場は仮設住宅に近い北ノ山保育園のホール、礼拝は合同礼拝として大島元村教会で行うこととなりました。両教会で合同の祈禱会を重ね、新聞折り込みチラシ(2回実施)による案内、商店等へのポスター掲示、保育園児の家庭や職員への案内、そして何より教会員達の個人的な誘い、できる限りのことをして備えました。

しかし、10月に入って両教会に天に召される方々があり、深い悲しみや寂しさを抱えながら当日を迎えることとなりました。しかしそれは、災害によって突然の別れをすることとなった方々の痛みに近いものでありました。

コンサート当日は雨模様で、海も少し荒れていましたが、森祐理さんも山北先生も予定通り来島され、80名あまりの来会者を迎えて大島町災害支援コンサートが始まりました。森さんの清らかな歌声と被災者の一人として歩んできた日々の中で受けた恵みの数々の証しが、聖霊の働きによって一人一人の心の中に深くしみ込んで、大勢の人々の目に感動の涙が溢れました。

翌日の礼拝でも、森さんの賛美と証しがあり、山北先生の説教に繋がれました。説教題は「明日のことは分からない中で」、ヤコブ書4章がテキストでした。明日のことを分からないで、御子を賜るほどの愛をもって導き助けようとしておられる主の御心を知らなくて、誇り高ぶって生きているわたしたちへの救いの処方箋がユーモアたっぷりに、しかし力強く語られました。礼拝後は、45名ほどの出席者のほとんどが残り、愛餐会を持ちました。それぞれが自己紹介をしながら感想を述べ合い、主にある交わりがさらに豊かなものとされました。

伝道推進室の支援により、このように恵まれた時を持つことが許されたことを心から感謝いたします。

夏期研修会

「説教の課題の発見と克服」



プログラム

8月11日(火)

12:30 受付 13:00 開会礼拝 説教:小島誠志(久万教会)

14:30 講演1「贖罪信仰を語り伝える説教」講師:石橋秀雄(教団総会議長)

16:30 講演2「説教の課題の発見」講師:小泉健(東京神学大学准教授)

19:00 「牧会夜話」～生きた言葉、生かす言葉～ 加藤常昭(隠退教師)

20:00 夜の礼拝 説教:小島誠志

8月12日(水)

9:30 朝の礼拝 説教:小島誠志

10:30 講演3「説教の課題の克服」講師:小泉健(東京神学大学准教授)

13:00 講演4「聖書の読み方」講師:石川立(同志社大学神学部教授)

14:30、16:30 ケース・スタディ(1)(2)「説教を読む」

19:00 「牧会夜話」～説教による教会形成～ 大串真(千葉北総教会牧師)

20:00 夜の礼拝 説教:大隅啓三(隠退教師)

8月13日(木)

9:30 朝の礼拝 説教:大隅啓三

10:30 講演5「説教の源泉としてのヨハネ福音書」講師:成田いうし(磐上教会)

11:30 開会礼拝 説教:大隅啓三

恵みを分かち合うために

スタッフ/沼津教会牧師 宮本 義弘

第6回夏期研修会が始まる前に、北からの便りがあった。それは、Cコース受験者の方で遠方ゆえ参加できないけれども勉強はしたいので、何か方法はないかとの相談だった。

そこで思いついたのが、沼津教会では、礼拝をICレコーダーで録音し、それをCDに焼き付けて100円で販売している。この手法を用いれば、要望に応えることができるのではないかと考えた。

そこで研修会中は、講師の了解を得て、すべての礼拝と講演と牧会夜話を録音し、終了後編集して、11枚のCDに収めることができた。これは、講師の生の声が聞けるので、迫力満点である。特に、牧会夜話の加藤常昭先生の「生きた言葉、生かす言葉」は、緑内障で片方の目が見えず、階段は手を貸さないと降りることができないほどの体の弱さを覚える中での加藤先生を「生かす言葉」が聞ける。

早速、お尋ねのあった方には送付した。そして、お礼の電話があり、「伝道推進室へ1,500円献金すればよいのですね」との喜びの声を聞くことができた。このCDは、どなたにでもお分けすることができるので、是非申し込んでほしい。(申し込みは伝道推進室へ)



夏期研修会に参加して

参加者/富士吉田教会牧師 今村 あづさ

富士吉田教会に赴任して、半年が経ちました。先週の祈祷会で、役員をしている方から、「先生、半年になりますね。これまでいろいろなことがあって、大変だったでしょう」とねぎらわれました。そこで、「教会も、その前の半年前から、大変だったでしょう?」と、とんちんかんな事を言ってしまいました。

教会の教職の交代は、信徒の皆さんにとって、大きな負担です。前任牧師の辞任の意向は、半年よりも前に役員会では明らかになっていたはずで、役員一人一人は、心を痛め、牧師のために祈られたことでしょう。そして次の教職をどうするか。教区に委ねる方法もあるところ、教会は自分たちで探すという決断をし、神学校に推薦を依頼しました。単立教会として教職を立てるのに苦労した経験を持つ教会です。この経緯にいいよ心を痛めたに違いありません。

5月に准允式、7月に就任式が行われました。この教会では、准允や就任式さえ、無事に出来ないことがありました。それを受けての冒頭の役員の方の発言なのです。

しかし、これからが私の本当の務めの始まりです。毎週の礼拝と祈祷会、教会員との連絡、さまざまな行事と教区・分区のやり取りなど、やるべきことはいくつもあります。

それに加えて、会堂をどのように整備していくのか、といった長期的な課題もあります。

夏の研修会では、何十年もの間、牧会の最前線に立っておられる先生方から、豊かな御言葉の説き明かしをしていただきました。お忙しい先生方が、夏の暑い時に、何度も説教してくださるのです。また、先輩牧師の方々のお話を伺いました。なかなか、牧師の口から「私には、もうできません」と祈ったと聞くことはありません。本当にありがたいことでした。

私は、これまで怠けていたのに、のこのこ夕方に出て来て、ぶどう園で働こうと言う不屈き者です。そのような者を温かく迎えてくださり、ありがとうございます。



プロテスタント
日本伝道 156 年

日本伝道 156 年目 各教区の財務状況から そして、「全国信徒会」

2015 年 9 月 28 日～ 29 日教団全国財務委員長会議が開かれた。日本伝道 156 年目の教団の姿について、フルベッキたちがしたように数字から伝道の状況を見ることができる。各教区から異口同音厳しい財務報告が寄せられたが、2000 年度との対比で状況を検証した。

経常収入総額 2000 年度 131 億 2730 万円、2013 年度 113 億 1999 万円に減少。つまり 18 億円の減少、変動率マイナス 13.8%。下のグラフは教区別に表したもので、その実態が見えてくる。

この現象の主要因は現住陪餐会員数に表れている。2000 年度 99,055 人、2013 年度 86,131 人。12,924 人の減少、変動率マイナス 15%。これにより現陪一人当たり 14 万円相当の減少の結果が 18 億円の収入減となって表れたことを示している。礼拝出席数は、2000 年度 59,533 人、2013 年度 53,512 人で、6,021 人の減少。変動率マイナス 10.1%。こうした状況を反映して、特に目立つのは北海教区と沖縄教区の負担金割当額の減少率の大きさ。北海教区マイナス 49.5%、沖縄教区マイナス 86.7%。中身の分析はとにかく、教区内での財政上の厳しさが如何に大きなものであるかが注目される。

日本基督教団の受洗停滞は 40 年に及ぶ。1970 年急変して以降、受洗数は年 2,000 人を割り、2013 年度 1,071 人と現住陪餐会員の減数に追いつかない状態が続いている。つまり現住陪餐会員数の減少は、受洗者が与えられないことに大きな要因がある。

日本基督教団全一一致して伝道が進めば、現住陪餐会員の減数と受洗数との逆転が起こり、教勢衰退に歯止めがかかるはずである。だが 40 年間進展しない。その原因はどこにあるのか。

一致を妨げる神学はある。全教団一致神学はない。神学校によっては、教団信仰告白、教憲教規に異を唱える教師が多く、その教えを受けて毎年新たに伝道師が送り出されてくる。また、教区によっては、教団信仰告白が告白できない教区もある。ここに教団が一致

最新の教勢分析から読み取れること

Ⅲ

第 39 教団総会期／常議員・目白教会員 鈴木 功男

できない根本的な原因があるのではないのか。

伝道と信仰告白とは別物であると考えているのではないかと疑問を持たざるを得ない。信仰告白と伝道とは一体であるはずのものが、そうでない現象が起きているからではないのか。

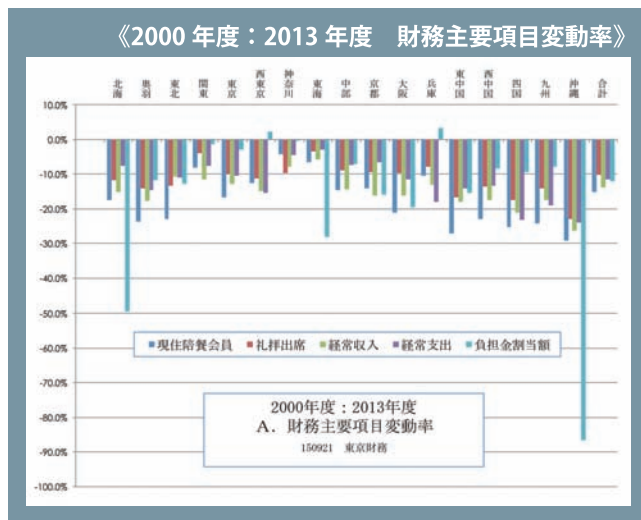
プロテスタント日本伝道初期、バラの生徒たちが祈りを教えてほしいと始めた初週祈禱会が何か月も続いたと言う。この出来事は、私たちに何かを伝えようとしている。そこから何かが起こったことを。

全国信徒会は 2015 年 6 月 9 日（火）東京・富士見町教会で再結成第 1 回大会が開催された。この再結成は、半世紀に及ぶ先達の祈りを受け継ぎながら漸く導かれた。開会礼拝で藤盛勇紀牧師（富士見町）は「全国信徒会は上からの再出発ではないか。キリストと共に復活させられた者は、共に天の王座に着いた者。全国信徒会が、天から遣わされている者たちの出発として祝されるように」と語り、聖餐式が執り行われた。

「伝道に燃える教会・教団」を合言葉に後押しされて全国信徒会は再出発した。規約の目的条項、日本基督教団全信徒の「主にある一致」「賜物の分け合い」「会員相互の交わり」を通して、日本基督教団の福音伝道推進に寄与するとした。

全国信徒会は「霊の賜物を分け合い」主を証しする群れとして伝道推進に関わらせていただきたいと願っている。

日本伝道 156 年目の教団の姿を、フルベッキたちはグラフから何を見、どのようにミッションボードに書き送るのだろうか。



伝道トラクトをご活用ください

好評
頒布中！



New!



教会は誰のもの？
あなたのもの！

山北宣久牧師



死よりも
確かなものは何か



すべてのわたしには
時がある

Christmas Message
わたしだけの誰か

網中彰子牧師

仕上がりサイズ
190mm×105mm
(二つ折り)

刷り込み部分
85mm×70mm

教会名等の刷り込みも
出来ます。

問い合わせ・
お申し込みは

Tel 03-3202-0541 Fax 03-3207-3918
E-mail dendo-s@uccj.org

刷込 なし…1枚 10円
刷込 あり…1枚 12円

教団ホームページから購入申込書のダウンロードができます。
1,000枚以上のご注文で教会名・地図等の刷り込みができます。

伝道推進室では、これまでに2種類の伝道トラクト(姜尚中氏・近藤勝彦牧師)と、クリスマス用トラクト(メッセージ: 網中彰子牧師)を作成、好評頒布中ですが、2015年秋、新たに山北宣久牧師からのメッセージを綴った新来会者向けトラクト「教会は誰のもの？ あなたのもの！」を作成しました。是非トラクトをご利用ください。

伝道応援報告

《2015年7月～11月》◆派遣教会 日時 講師

◆九州教区	小倉徳力教会	8月22日～23日	北 紀吉(伝道推進室委員・松沢教会)
◆東北教区	磐城教会	9月13日	須田 拓(東京神学大学・橋本教会)
◆東北教区	郡山教会	9月13日	山畑 謙(伝道推進室委員・小金井緑町教会)
◆奥羽教区	脇本教会・秋田飯島教会	9月12日～14日	藤井 圭子(呉平安教会信徒)
◆西東京教区	立川からしだね伝道所	9月27日	深谷 有基(エマオ石巻専従者)
◆東京教区	大島元村教会・波浮教会	10月17日	山北 宣久(前 教団総会議長)
◆関東教区	牛久教会	11月18日	小島 誠志(元 教団総会議長)

北陸大会

2016年2月14日(日)

《場所》石川地区・富山地区諸教会

《講師》加藤常昭(隠退教師) 石橋秀雄(室長)

クリスマス献金のお願い

《郵便振替口座》00150-4-338628 日本基督教団伝道推進室

「うれしい、うれしいクリスマス～♪」と子どものさんびかにあるように、クリスマスの大きな喜びを、全国の主にある信仰の友と分かち合いたいと願います。どうぞ喜びのしるしとして献金を伝道推進室にお献げください。振替用紙をお用いください。



《伝道推進室基本方針》

日本基督教団は、聖なる公同の教会に連なる福音主義合同教会である。本教団は、簡易信条と公会主義の伝統を継承しつつ、十字架と復活の主のご委託に応じて、日本伝道の幻に仕える。伝道推進室は、伝道委員会のもとに設置された機関であり、『日本基督教団信仰告白』と『日本基督教団教憲教規』に基づく信仰の一致をもって、さらには将来の『伝道局』構想を視野に入れつつ、教団全体における伝道の実践と研究に取り組み、教団内諸教会、諸団体における伝道の推進に仕えるために活動する。

●発行所／石橋秀雄 ●発行日／2015年11月29日

伝道推進室報 No.6

●発行所／日本基督教団 伝道推進室

《日本基督教団事務局内》〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
一時移転先 〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18 〈郵便振替 00150-4-338628〉
TEL 03-3202-0541 FAX 03-3207-3918 URL <http://uccj.org>

編集後記

★アドベントからクリスマスへの歩みに福音の恵みが満ち溢れますよう、お祈りいたします。
★室報第6号をとおして、震災から4年のときを歩む福島の地でのキャラバン、大島での伝道応援、夏期研修会と、主が豊かに働かれた証しを分かち、ますます共に一つの福音に仕えてまいりたいと祈り願います。
★伝道トラクトを是非お用いください。
(広報実務委員会)